文部科学省　令和5年度研究開発学校（第一年次）

研究計画について

白梅学園大学附属白梅幼稚園

小平市立小平第一小学校

研究開発課題

●幼小移行期において生活の発見と交流を通して問題解決を図り、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力を育み、「探究」を自律的に深化させる、幼小一体的な教育課程の研究開発

本研究の目的

①幼稚園5歳児から小学校2年生の3年間において、自律的に深化させる「探究」について、生活経験に基づく幼小一体のカリキュラムとして提案する。

②幼小一体のカリキュラムとして「生活ひろば」を小学校の教科、幼稚園の活動として導入し、実践と評価を通して、教育上の意義と有効性を明らかにする。

③「生活ひろば」において、「個の学び」と、同学年や異学年の仲間や地域の人々などを交えた「対話的協働的な学び」との融合を図る教育方法を提案する。

④以上の①～③を通して、子供自身によって学びがマネジメントされ、探究が自律的に深化し、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれることを検討する。

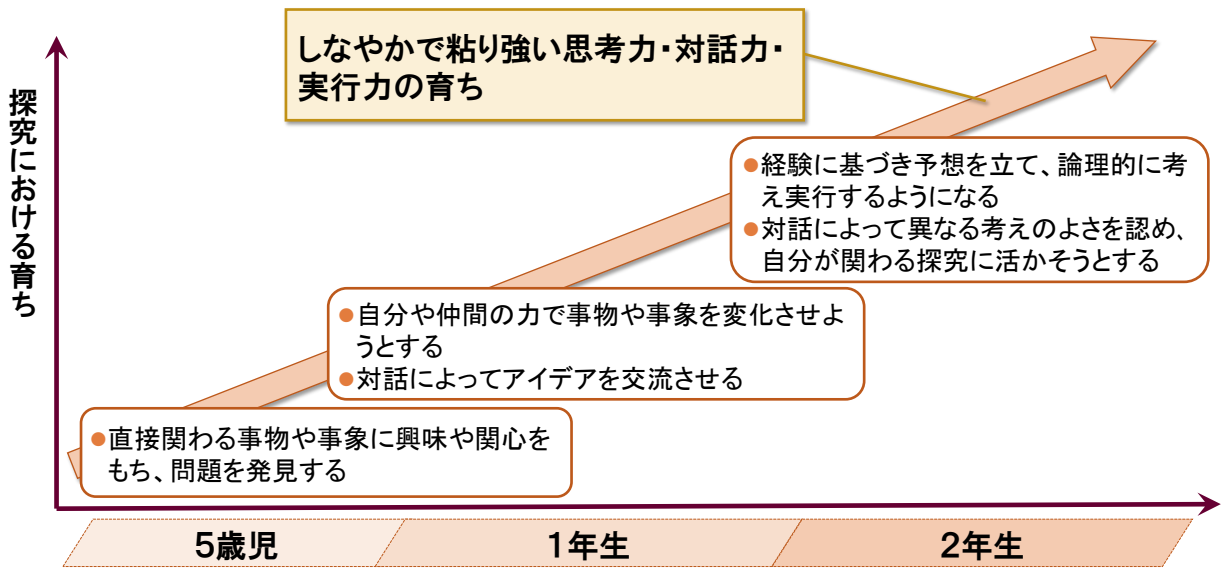
研究仮説

- **1. 教科・活動「生活ひろば」の導入**
  - 幼稚園・小学校の一体的な教育課程として、教科・活動「生活ひろば」を導入し、子供自身の生活に基づく問題解決を連鎖させ、探究を深化させることができる。
- **2. 地域の環境や資源を活用した教育方法の工夫**
  - 地域の環境や資源を活用し、探究の深まりをらせん的に導く。
- **3. 個の学びと対話的協働的な学びとの融合**
  - 「生活ひろば」における交流や協働、様々な表現と対話を通して、個の学びと、同学年や異学年の仲間を交えた対話的協働的な学びを融合させる。
- **4. 「探究」の自律的深化による育ち**
  - 「探究」を自律的に深化させることにより、事物や事象への関わり方に発達がみられ、しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力が育まれる。

しなやかで粘り強い思考力・対話力・実行力

- **思考力**
  - 事物・事象との関わりにおいて予想通りにいかず修正を要したり、思わぬことから学びが拓けたりして、思考力が試される。
- **対話力**
  - 自他の考えを交流させる過程で対話力が試される。
- **実行力**
  - 自他のめあてを実現するには失敗をおそれぬ実行力が試される。
- **しなやかで粘り強い**
  - 思考力・対話力・実行力は、問題解決の連鎖の過程で、あきらめずに粘り強く探究を続け、状況の変化に柔軟に対応することによってもたらされる。

「探究」における発達



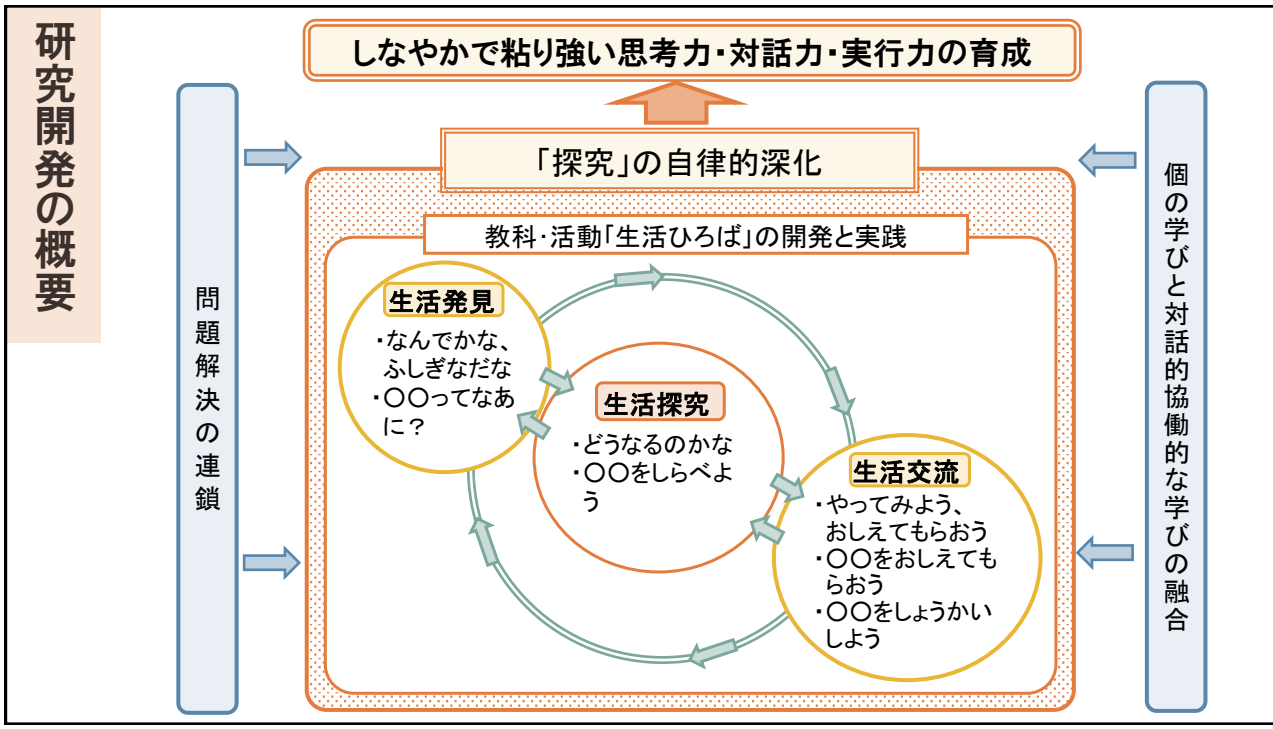
教科・活動「生活ひろば」

幼小一体化カリキュラム

- **幼稚園・小学校とも、同じ枠組みの幼小一体化カリキュラム**
  - 「生活発見」「生活探究」「生活交流」
  - 幼児教育と小学校教育のカリキュラムの接続　　←分断を乗り越える
  - 小学校１～２年生：週５時間を配当（生活科週３時間＋図工科・音楽科各１時間）
- **「生活発見」**
  - 自らの生活を見つめ直し、気付いたことや不思議さを感じたことから、素朴な疑問を出し合い、「知りたい」「やってみたい」問題を発見する。
- **「生活探究」**
  - 「生活発見」で見つけた問題について、解決を試みることを重ね、生活における事物や事象の仕組みや構造について探究を深めていく。
- **「生活交流」**
  - 生活の異なる場を交流させ、生活にはさまざまな局面があることや多様な価値観に基づいていることを理解し、刺激を受けたことを自らの生活に取り入れたり、誰かの生活に役立てようとしたりする。

「生活ひろば」の構成

	生活発見	生活探究	生活交流
4歳児から	生活や遊びにおいて、興味や関心のあることに向き合い、時間をかけて活動を展開する。		
5歳児	・生活や遊びにおいて、気付いたことや不思議に感じたこと、関心のあることをもちより、疑問を出しあう。 〔なんでかな、ふしぎだな〕	・生活や遊びにおいて、仲間とめあてを共有し、問題やうまくいかないことについて考えを交流させ、試行錯誤しながら、新たな気付きを得て、変化を共有し、充実感を味わう。 〔どうなるのかな〕	・家庭生活とのつながりを基盤にしながら、生活上の様々な工夫に触れ、関心をもつ。 ・地域の文化や自然、資源に出あい、興味や関心をもって関わり、親しむ。 ・異年齢や小学生、地域の人と交流し、刺激を受けたことを自らの生活や遊びに取り入れる。 〔やってみよう、おしえてもらおう〕
1年生	・主に学校や通学路の不思議から、問題を発見する活動につなげる。 〔〇〇ってなあに？〕	・調査活動からできそうなことを取り入れ、楽しみながらトライ＆チャレンジする活動を行う。 〔〇〇をしらべよう〕	・他者（幼稚園児や地域の人など）と交流して、探究によって得られた成果を表現し提供する活動を行う。 〔〇〇をおしえてもらおう〕
2年生	・主に通学路や遊び場の不思議から、問題を発見する活動につなげる。 〔〇〇ってなあに？〕	・調査活動から、自分や誰かにとって役立ちそうなことを取り入れ、楽しみながらトライ＆チャレンジする活動を行う。 〔〇〇をしらべよう〕	・生活探究によって得られた成果を、他者（幼稚園児や地域の人など）に表現し提供する活動を行うとともに、交流を通して生活探究を深める。 〔〇〇をしょうかいしよう〕
3年生へ	・「なにこれ」「ふしぎ」の感覚を大切にし、問題発見力を育む。	・社会的、理科的なものの見方・考え方を活用して問題解決を行う。	・Show＆TellやICTなどを活用し、表現活動を充実させる。



活動例 「わくわくうどん」をつくって食べよう

- **おいしいうどんになるのかどうか、わくわくしながら栽培や加工を行う。**
- **1年生**
  - 秋に小麦の種をまき、栽培する。
- **2年生**
  - 自分たちで栽培した小麦を1学期の中頃に収穫する。地域の人に小麦粉への加工の仕方を教えてもらい、脱穀して石臼で製粉する。
  - おいしいうどんのつくり方を、うどんづくり名人に教えてもらって、うどんづくりに挑戦する。
- **5歳児**
  - 4歳児のときに大豆を栽培する。その過程で、枝豆を収穫して食べ、枝豆と大豆の関係を知る。
  - 地域の人に味噌や醤油のつくり方を教わり、自分たちで仕込む。約半年後にできあがる。
- **交流**
  - 小学生はうどんを、5歳児は味噌や醤油を持ち寄り、「わくわくうどん」を完成させる。
  - お世話になった地域の人たちも交えて、おいしくいただく。

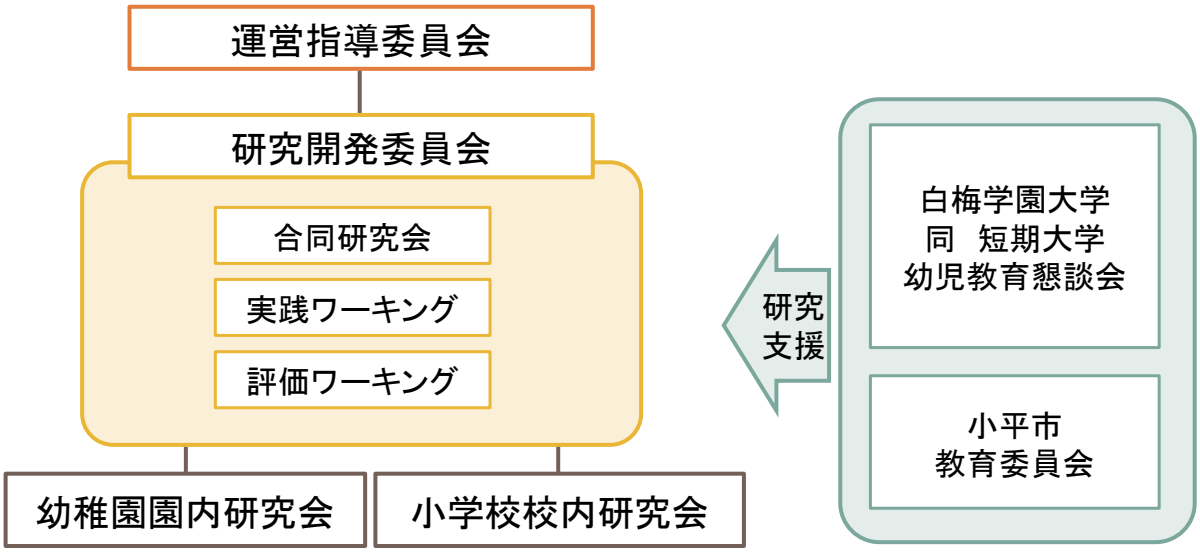
研究成果の評価方法

- **①探究ドキュメンテーションの開発とルーブリックの作成**
  - 子供たちの探究の過程を適切に振り返る。
- **②子供への聴き取り調査による自律的な学びの評価**
  - 子供自身が自らの活動の経験をどう捉えているのか、活動の取り組みの過程や、子供自身の経験について、評価を行う。
- **③「生活ひろば」における異学年や地域の人との交流・協働による育ちの評価**
  - 保護者にはアンケート調査を、地域の協力者には聞き取り調査を実施し、異学年や地域の人との交流が子供の育ちや発達にどのように影響しているのか、評価する。
- **④卒園児への追跡調査による、幼稚園と小学校の学びとのつながりに関する評価**
  - 幼児期の学びが、小学校以降の「生活ひろば」や教科の学習でどのように生かされているのか、卒園児及びその保護者に対するアンケート調査を通して、評価する。
- **⑤研究開発の実施に関する評価**
  - 両校園の研究組織や、大学・短大・教育委員会といった研究支援組織、運営指導委員会や公開研究会における議論等を通して、評価を行う。

第1年次（本年度）の研究計画

- **「探究」を自律的に深化させる教育課程の構成やカリキュラム・マネジメントのあり方を研究し、「生活ひろば」の編成を行う。**
- **①第2年次以降の実施に向けて、教育課程を構成し、教材の準備を行う。**
  - 探究活動を深めるためのテーマの研究や教材研究を行う。
  - 異学年や地域の人との交流や協働による探究を可能にするための活動の構成を考える。
  - 以上をふまえて、試作的な教育課程を作成し、一部試行する。
- **②幼小合同で研究会を開き、相互に実践を参観し、幼小連携や教材研究の研修を行う。**
- **③評価方法を検討し、1年目の評価を実施する。**
- **④研究開発を進めるために、研究組織を構成する。**

研究組織


運営指導委員会
研究開発委員会
合同研究会
実践ワーキング
評価ワーキング
幼稚園園内研究会
小学校校内研究会
研究
支援
白梅学園大学
同　短期大学
幼児教育懇談会
小平市
教育委員会